

年月日

23

06

09

ページ

22

NO.

科学技術の潮流

JST研究開発戦略センター

198

巨額投資

近年、世界で巨額の研究開発投資が相次いでいる。背景としては、米中摩擦に端を発する科学技術・イノベーション創出の国際競争に加え、気候変動などグローバル課題への対処や、半導体供給網に代表される産業基盤の強化が各国の優先課題となっていることが挙げられる。

また、新型コロナウイルス感染症の大流行やロシアのウクライナ侵略など不安定な国際情勢により、医療、工



科学技術振興機構(JST)
センターフェロー(海外動向ユニット)

長谷川 貴之

JST入職後、地域事業、情報事業、国際事業、日本学術振興会出向などを経て、18年より現職。米国の科学技術政策動向調査を担当。

科技イノベ 各国が推進策

研究開発を俯瞰する

1

エネルギー、食料など多様な安全保障課題が頭在化したこと、これらの投資に拍車をかけている。一方で、各国はこれを機に蓄電池や

クリーンエネルギー、

このように、各國

はその一例だ。米国

の国防高等研究計画局(DARPA)が典型的として知られるが、民

もみ育てる土壤として、

エコシステム

イノベーションを産

見せている。戦略的な目標達成を指向する動きが欧米(AI)、量子などの重要技術の優位性を確保しようとする姿勢を開き始めている。

南アジア諸国連合(ASEAN)など新興国グループの存在感も高まっている。

トをもたらす技術の開発に取り組む、ディ

バートの振興に向けた官

ツアップの振興に向けた官

員の投資も、世界中で

活発化している。

大学を中心とした地域イ

ンノベーション機関

(DATI)は、これ

の構築を目指す。米国

でも、各地に拠点を構築して、地域の課題解

決や産業活性化を志向

した研究開発や人材育

成を開拓するプログラ

ムが多く立ち上がり

ている。

いずれの取り組みも、それぞれのステークホルダー(利害関係者)の関わり方に変容をもたらし、新しいイノベーションエコシステムの形成につながっていく可能性がある。

科学技術・イノベーション創出のための推進方策例

グローバル課題・社会課題の解決
重要技術の優位性確保

巨額の研究開発投資

科学技術・イノベーションの推進

多様な推進方策を展開

急進的
イノベーション

地域
イノベーション

スタートアップ

JST研究開発センター「研究開発の俯瞰報告書 科学技術・イノベーション政策の国際動向(2023年)」(2023年3月)を参考に作成
<https://www.jst.go.jp/crds/report/CRDS-FY2022-FR-02.html>

ノベーションシステムの構築を目指す。米国でも同様の機関を創設する動きが欧米でも広がっている。各国で広がっている。また、社会にインパクトをもたらす技術の開発に取り組む、ディバートの主導で迅速な成果創出と実用化を目指す「急進的イノベーション」と呼ばれるモデルは、その一例だ。米国

は基礎研究の強化とともに、研究開発やイノベーション創出のための新たな推進方策を展開している。一方で、社会にインパク

トをもたらす技術の開発に取り組む、ディバートの主導で迅速な成果創出と実用化を目指す「急進的イノベーション」と呼ばれるモ

デルは、その一例だ。米国

は基礎研究の強化とともに、研究開発や人材育成を構築する取り組みも進んでいる。ドイツが新設した技術移転

自国内の諸地域に、人材を含む基礎的な研究能力を構築する取り組みも進んでいる。ドイツは、これまで地域産業の人材需

求も進んでいる。ドイツが新設した技術移転

(金曜日に掲載)